

でんでら通信 第一百三十九号 令和七年十一月

坐禪会

十一月二十九日(土)十時に坐禪会を開催します。みなさんのご参加をお待ちしております。

もののは考え方

あつという間に、朝晩が寒くなる季節になつてしましました。みなさん、お風邪を召してはいないでしょうか。私はどうも鼻風邪のようで、くしゃみ、鼻水が出てしようがありません。

さて、人は生きていこうで、どうしても一つの考えに凝り固まつてしまい、自分で苦しみを作ってしまう傾向があるようです。そこでこんな新聞に投稿がなされていたので紹介させていただきます。

◇ ◇ ◇ ◇

会社役員 室田 善弘

(埼玉県 57歳)

旅行会社に入つてすぐ、東京ディズニーランドが開業しました。最初は駐車場でバスの団体客に入場券を配る仕事。1ヶ月も続くと「いつまでこんな仕事を」と落ち込み、会社を辞めたりました。そんな時、その駐車場にバスを誘導しながら笑顔で楽しそうに働いている女性がいました。

「ミッキーやドナルドと働けなくて残念やね」と言うと「いいえ。お客様が最初に出会うキャストが私なんです。こんなすきな仕事はないです」と。

なるほど!

翌日から私も笑顔で

「ここにちは!」

とやつてみました。するとお客様から、

「ご苦労様」「ありがとうございます」という反応が! びっくりです。

自分の意識と行動を変えると相手の反応も変わる」とに気付きました。

それから34年。その女性は、私が家に帰ると「お帰り」と迎えてくれます。

◇ ◇ ◇ ◇

仏教の基本的な教えでは、人生は「一切皆苦(人生は思い通りにならない)」であると捉えられています。しかし、この苦しみは、全てのものが常に変化し続ける「諸行無常」と、あらゆるもののが互いにつながり合つて変化する「諸法無我」という真理を理解することで、受け入れられると説かれています。世の中の出来事に一喜一憂せず、心が安定した状態を目指すことが、苦しみからの解放につながると考えられています。

そして人生における迷いや悩みの原因を「煩惱」とし、その煩惱に振り回されずに生きるために智慧を与えてくれます。

例えば、人間関係や進路、仕事などで迷つた時に仏教はカーナビのように正しい道を示してくれると表現されることもあります。「ものの考え方」とは、仏様が説いた「縁起」の思想にも通じます。これは、物事がお互いに関係し合つて生じるという意味で、良い悪いの判断だけでなく、すべての物事の原因と

条件が重なつて結果が生じることを指します。

私たちの世界に永遠に変わらないものはあります。常に変化し、人の心もまた同じです。どのような状況に置かれても、自分の心ひとつでどちら方を変え、心を穏やかに保つことができるが、「ものは」を考えよう」という仏教的な視点と言えるでしょう。

先ほどの投稿者も、ものの見方を変えただけで、大きな変化があり、その後の人生にも影響しました。

私たちの人生は、日々の思考と決断の連続によって形作られています。幸せな人生を送る人もいれば、うまくいかないと感じる人もいますが、この違いは神様や運命のせいではなく、私たち一人ひとりの考え方や選択に大きく左右されると仏教は考えます。

以前にも掲載しましたが、再来年は妙心寺第二世興祖微妙大師六五〇年遠諱大法会を迎えます。

本山妙心寺団体参拝

「遠諱」とは寂後、五十年に一度、祖師方や故人の遺徳を偲ぶ節目を言います。ご功績を顕彰し御恩に感謝して大法会(法要)を執り行います。当禅林寺でも、来る令和八年三月十一日(水)大

本山妙心寺へバスによる日帰り参拝を計画します。本遠諱のキヤツチフレーズは「いま、ここを生きるしあわせ」です。思い通りにならない人生だとしても、いまここを精いっぱい生きることで、誰の人生にも「真実の楽しみ」が立ち現れてくる、です。参拝の詳細は別紙にて募集します。